

日本をイノベーションの拠点に 外資系化学企業

トップインタビュー

DSM（オランダ）は2010年までに従来の化学メーカーから、栄養関連素材（ユートリション）や機能性素材を中心とするライフサイエンス企業へ大きく事業を転換した。日本での事業を担当するDSMジャパンのレオン・ハルダース社長に方針を聞いた。

DSMジャパン社長

レオン・ハルダース氏



中期戦略ではグローバルシフトや気候・エネルギー、健康の分野で成長を図ります。事業環境の変化はチャレンジだ。自社での研究開発に加え、同様の問題意識を持つ企業とパートナーシップを結び、イノベーションを加速させたい。当社は研究開発力とグローバルなネットワークを強みに持つ。例えば、日本では食品・飲料大手がグローバル展開を長年に亘り行なった。

DSM（オランダ）は2010年までに従来の化学メーカーから、栄養関連素材（ユートリション）や機能性素材を中心とするライフサイエンス企業へ大きく事業を転換した。日本での事業を担当するDSMジャパンのレオン・ハルダース社長に方針を聞いた。

エネ、環境、バイオ 次世代事業の育成へ

サービス体制強化進む



今月、日本エア・リキードは佐賀県に国内初の可搬式水素ステーションを設置した

化学大手のデュボン（米国）は太陽電池のパックシート向けに展開するポリフッ化ビニル樹脂（PVC）で、高耐候性製品市場をリードする。庄

倒的な長期信頼性が評価され、欧州の太陽電池メーカーを中心に採用されている。現在、米国拠点で同フィルムの原料樹脂を増産しており、世界的な太陽電池の需要増加に対応する。

（米国）は太陽電池のパックシート向けに展開するポリフッ化ビニル樹脂（PVC）で、高耐候性製品市場をリードする。庄

も展開。封止材の特徴を

止材や電極ペーストなどノマー樹脂製の高強度封

R&D費の60%を環境やライフサイエンスに充て、次世代事業を育成している。中でも、燃料電池に使う水素ガスエネルギーは今後最も成長が期待される分野。自社で燃

生かし、日本では斐

オニ二次電池向けに正極材料などを投入。同社の正極材料は金属不純物が少なく、サイクル寿命を延長できる。また

日本法人の日本エア・リキードが佐賀県に日本初の可搬式水素ステーションを設置。低コストかつ短納期の利点を得る。

今月には、日本法人の日本エア・リキードが佐賀

年12月に「ゴグニス・ホルディング」を買収し、製品のポートフォリオを拡充。栄養素材や医薬用添

分野では、今夏から日本子会社がボリエーテル・テルケトン（PEEK）樹脂の混練（コンバ

ス）を混合した環境対応品を開発した。これにより、燃料電池の開発まで手掛け

ており、欧州での研究開発の蓄積を生かし、燃料電池の主要市場として期待される日本での成長を

生かし、日本では斐

ルケトン（PEEK）樹脂の混練（コンバ

ス）を混合した環境対応品を開発した。これにより、燃料電池の主要市場として期待される日本での成長を

生かし、日本では斐

ス）を混合した環境対応品を開発した。これにより、燃料電池の主要市場として期待される日本での成長を

生か